経済･経営

key word

- ■ 動学的一般均衡
- ■ 財政政策の維持可能性
- ■ マクロ経済学
- ■ 不動点定理、近似
- ■ 非線形写像

近藤　豊将
Atsumasa Kondo

経済学部
教授

【プロフィール】

- ●1998 年 慶應義塾大学 経済学部 卒業
- ●2004 年 京都大学経済研究所 COE 研究員
- ●2014 年 内閣府 経済社会総合研究所 主任研究員
- ●2017 年 滋賀大学 経済学部 教授

【研究業績】

- ●『貨幣経済の動学的一般均衡分析』(単著)三菱経済研究所
- ● International Linkage of Inflation Rates in a Dynamic General Equilibrium,(共著), Journal of Economics,2012
- ●Sustainability of Public Debt In an AK Model with Complex Tax System"(単著), Inequality and Finance in Macrodynamics, 2017.
- ● Strong Convergence Theorems of Halpern's Type for Normally 2-Generalized Hybrid Mappings in Hilbert Spaces",(共著), Journal of Nonlinear and Convex Analysis, 2018.
- ● Weak and Strong Convergence Theorems for Commutative Normally 2-Generalized Hybrid Mappings in Hilbert Spaces,(共著), Linear and Nonlinear Analysis, 2018.

【代表的な研究テーマ】

□ 財政政策の維持可能性の動学的一般均衡分析
□ 非線形解析学、不動点近似

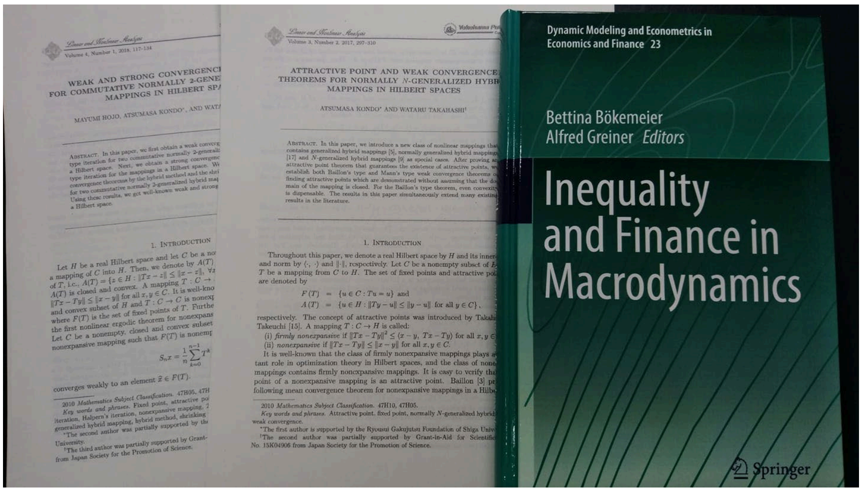
課題解決に役立つシーズの説明

私の現在の研究テーマは、広く言えば、**動学的一般均衡理論とその応用**です。動学的一般均衡理論とは、学部のミクロ経済学でお馴染みの価格理論に時間の流れを加味して拡張した理論で、**最適成長理論**をベースにして近年 飛躍的な発展を遂げています。また、国際経済学、金融論、財政学など多くの応用分野で広く活用されています。

私は、もともとは動学的一般均衡理論の数理的展開に興味があったのですが、博士号を取得後応用色を強め、**マクロ財政学**といわれる分野に新規参入しました。その後は、その視点から、2国間のインフレ率の連動性、少子化や経済成長の国債動学、政府債務の返済可能性、インフレ率などへの影響を研究しています。

少子化問題のマクロ経済学的な影響について、補足説明しましょう。先進国は、おしなべて少子化に悩んでいますが、特に日本は深刻です。少子化の害悪についてはいろいろあり得ますが、私は財政赤字の維持可能性に注目して研究しています。なにしろ、政府は莫大な借金を抱えているのに、税金を払ってくれる人の数が減少するのですから、これは問題です。人口成長率が１%減少すると、一人あたりの税金を引き上げる必要がでてくるかもしれません。または、移民を受け入れるなどして日本で税金を払ってもらう必要性が増すかもしれません。私の研究では、このような点をシンプルな動学モデルを用いて研究しました。

最近では、無限次元 Hilbert 空間を舞台とした**非線形関数解析学**や**凸解析学**にも興味を持ち、ある種の非線形写像の**不動点定理**や不動点への収束点列の構成方法を研究しています。このような研究は、経済学で現れる均衡や最適化問題の解の存在・近似問題へ応用できる可能性もあり、将来の発展が期待できると思っています。特筆したいのは、現代数学の勉強は、**論理的思考力**を養うために最適という点です。この能力は、ビジネスの現場でも不可欠であると思います。



企業･自治体へのメッセージ

最近では、経済学と数学の研究を進めています。文系出身の社員の方の数理的能力開発や、逆に理系出身の方の数学再学習や数学を用いた経済分析のための講師役などで貢献できると思っています。中学校や高校の数学や社会科の先生方と勉強会などをしても役に立てるかもしれません。また、経営問答や英単語の語源学習も大学の授業で取り入れており、そのような方面での学習サポートも可能です。